

「ずうっとずっと大好きだよ」 あらすじとポイントをわかりやすく

「ずっとずっと大好きだよ」の内容

ずっとずっと大好きだよ 登場人物（とうじょうじんぶつ）

エルフ・・・「ぼく」が かつている 犬

ぼく・・・このお話の しゅじんこう
エルフの かいぬし

にいさん・・・「ぼく」の おにいさん

いもうと・・・「ぼく」の いもうと

ママ・・・「ぼく」の おかあさん
花だんで 花を そだてている

じゅういさん・・・エルフを みてくれた どうぶつの おいしゃさん

となりの 子・・・「ぼく」の となりに すむ こども
子犬を くれようと する



ずっとずっと大好きだよ あらすじ

エルフは、せかいて いちばん すばらしい 犬です。

ぼくと エルフは いっしょに 大きく なって、いっしょに ゆめを見て、まい日 いっしょに あそんだ。エルフは ぼくの 犬だった。

いたずらを しても、みんな エルフが 大すきだった。

でも、いわなくても わかると おもって だれも いって やらなかつた。

やがて エルフは 年を とった。ぼくは、ねる まえに かならず 「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」と いって やった。

ある あさ、エルフは しんで いた。

ぼくは かなしくて たまらなかつたけど、「ずうっと、大すきだよ。」

と いって やって いたから、いくらか 気もちが らくだった。

となりの 子が 子犬を くれると いったが、ぼくは ことわった。

いつか、なにかを かって、ぼくは まいばん「ずうっと、ずっと、大すきだよ。」と いって やるんだ。

「ずっとずっと大好きだよ」お話のポイント

「ずうっとずっと大すきだよ」のおはなしのポイントを場面分けごとにまとめてみよう。

だい1の ばめん：エルフの しょうかい

だい1だんらく～だい2だんらくまで



だい1の ばめんでは、しゅじんこうである「ぼく」が エルフを しょうかいしているよ。

「エルフは、せかいで いちばん すばらしい 犬です。」という 1文から、「ぼく」が どれだけ エルフのことが 大すきなのか つたわってくるね。

だい2の ばめん：げんきな エルフの ようす

だい3だんらく～だい9だんらくまで

だい2の ばめんでは、エルフの げんきなころの ようすが かかれていますよ。

だい3だんらくでは、「ぼくたちは、いっしょに 大きく なった。」と かかれていますね。

「ぼくたちは」とは、だれの ことかな？
そう、「エルフ」と「ぼく」の ことだね。

犬は、にんげんよりも せいちょうが 早いんだ。
犬が 1さいになると、にんげんで いえば 20さいに なっているんだ。
だから「エルフの ほうが、ずっと 早く、大きく なったよ。」と かかれていますね。

だい4～6だんらくには、「ぼく」が エルフのことを 大すきな ようすが かかれていますね。

・エルフの あったかい おなかを、いつも まくらに するのが すきだった。



- ・いっしょに ゆめを 見た。
- ・エルフは ぼくの 犬だったんだ。
- ・まい日 いっしょに あそんだ。

「ぼく」が いつでも エルフと いっしょに いた ようすが つたわってくるし、にいさんや いもうとも エルフが 大すきでも、「エルフは ぼくの 犬」と いうくらい、エルフの ことが ほんとうに 大すきだという きもちが あらわされて いるね。

だい7～9だんらくでは、かぞくの エルフへの きもちが かかっているね。

だい8だんらくには「エルフが わるさを すると、うちの かぞくは、すごく おこった」と かかっているね。
「わるさ」とは、なにかな？

エルフは、ママの 花だんを ほりかえすのが すきなんだよね。
たいせつに 花を そだてている 花だんを ほりかえされたら、ママがおこるのも あたりまえだね。

でも、しかりながらも、「ぼく」の かぞくは みんな エルフの ことが 大すきなんだよね。

だけれど、だれも ちゃんと エルフに「すきだよ」と つたえて あげて いなかったんだよね。

どうして ちゃんと つたえなかったのかな？

そう、「いわなくっても、わかると おもって いた」からだね。



だい3の ばめん：としを とった エルフの ようす

だい10～14だんらく

だい3の ばめんでは、エルフが だんだん としを とって、これまでの ように げんきいっぱい あそぶことが できなく なって しまう ようすが かかれていますよ。

「いつしか、ときが たって」と「ぼくの せが、ぐんぐん のびる あいだ」という ことばで、たくさんの じかんが たった ことが わかる ね。

としを とった エルフは どんなふうにかわって しまったか、まとめて みよう。

- ・ どんどん ふとった。
- ・ ねて いる ことが おおく なった。
- ・ さんぽを いやがるようになった。
- ・ かいだんも 上れなく なった。

としを とった エルフを みて、「ぼく」や かぞくは どうしたか、まとめて みよう。

- ・ 「ぼく」は、とても しんぱいした。
- ・ 「ぼく」と かぞくは、エルフを じゅういさんに つれて いった。
- ・ 「ぼく」は、エルフに やわらかい まくらを やった。



・「ぼく」は、ねる まえには、かならず、「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」と 言って やった。

おはなしに ことばで かかれては いないけれど、さしえをみると、「ぼく」は かいだんを 上れなく なった エルフを、だっこして 「ぼく」の へやへ つれて いるように かんがえる ことも できるね。

なぜなら、「ぼく」は、「エルフは、ぼくの へやで ねなくちゃ いけない」と かんがえて いるからね。

「ぼく」と かぞくが エルフを じゅういさんに つれて いったのは なぜかな？

じゅういさんとは、どうぶつを みてくれる おいしゃさんの ことだね。

「ぼく」と かぞくは、げんきのない エルフを しんぱいして、おいしゃさんへ つれて いったんだね。

どうして、じゅういさんにも、できる ことは なにも なかったのかな。

なぜなら、エルフの げんきが なくなって しまった りゆうは、「としをとった」から だったんだ。

びょうきだったら、おくすりを だしたり できるけれど、「としをとって、いつか しんで しまう」ことは、いきものすべて、みんな おなじで、とめたり なおしたり できる ものではないからだね。



だい4の ばめん：エルフが しんで しまう

だい15～17だんらく

だい4の ばめんでは、エルフが どうとう しんで しまうよ。そして、のこされた かぞくの ようすが かかっているよ。

エルフが しんで しまって、かぞくは なにを したのか まとめて みよう。

- ・エルフを にわに うめた。
- ・みんな ないた。
- ・かたを だきあった。

エルフが しんで しまって、とても かなしんでいる かぞくの ようすが つたわるね。

でも、「ぼく」は いくらか 気もちが らくだった と かいて あるね。

「いくらか」とは、「すこし」という いみだよ。

どうして 「ぼく」は ほかの かぞくよりも すこし 気もちが らくだったのかな。

そう、なぜなら まいばん エルフに、「ずうっと、大すきだよ。」とちゃんと つたえて いた からだね。



だい5の ばめん：「ぼく」の おもい

だい18～20だんらく

だい5の ばめんでは、エルフが しんで しまった あとの、「ぼく」の きもちや おもっている ことが かかれて いるよ。

エルフが しんで しまったので、となりの 子が、子犬を くれると いったね。

なぜなら、「ぼく」や ぼくのかぞくが、エルフが いなくなって しまって、さみしいと おもったからだね。

でも、「ぼく」は ことわったね。どうしてだろう？

子犬を もらったら、エルフが おこるからかな？

でも、「ぼく」は 「エルフは 気に しないって わかって いた」と かいて あるね。

だから、「エルフが おこるから」では ないんだね。

おはなしの さいしょに 「エルフは せかいで いちばん すばらしい 犬」や、「エルフは ぼくの 犬」と かかれて いたように、「ぼく」にとって、エルフは とても とても たいせつな 犬だったんだよね。

だから、いまは まだ「ぼくの 犬」は エルフだけなのかも しれない ね。

「ぼく」は かわりに、となりの 子に エルフが 使っていた バスケットを あげたね。



なぜなら、子犬が いる となりの 子の ほうが、バスケットを いる
と おもったからだね。

「ぼく」は、これから ほかの犬や、子ねこや、きんぎょや、たとえ な
にを かって、まいばん「ずうっと、ずっと、大すきだよ。」と いて
やると きめているね。

なぜなら、「ぼく」は エルフに まいばん ちゃんと「ずうっと、大す
きだよ。」と つたえて いて よかったと おもって いるからだね。

そして、「大すき」という きもちを ちゃんと つたえることが、とて
も たいせつだと おもって いるからなんだね。

